

企画・構成・演出—渡邊守章

出演—後藤加代

2010年5月29日(土) 14時開演

30日(日) 14時開演

※各回ともに、30分前開場

京都芸術劇場 studio21

(京都造形芸術大学内)

〔料金〕

一般 2500円 シニア 2200円

学生&ユース 1300円 瓜生山学園生 800円

京都芸術劇場友の会 2000円

京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター主催

語りの系譜②

近代小説の珠玉とも言うべき樋口一葉の『にぎりえ』
その紡ぎだす言葉の誘惑を、日本の芸能を貫く「語り」の視座から読み直す実験。

樋口一葉作

にぎりえ



2010年5月29日(土) 14時開演・30日(日) 14時開演 ※各回ともに、30分前開場

京都芸術劇場 studio 21 (京都造形芸術大学内)

日本の伝統演劇における「語り」としての「言葉」のありかたは、その身体的な力や音楽的強度によって、新しい演劇言語の可能性を開くものとして、世界的に注目されている。舞台芸術研究センター企画としては、20世紀最大の劇詩人ポール・クロードルの集大成的大作『緋子の靴』のオラトリオ版(野村万作、萬斎、後藤加代主演)に続き、「語りシリーズ」として、樋口一葉作『たけくらべ』を、後藤加代の語りで上演し、観客に深い感銘を与えた。これらの成果を踏まえて、今年、同じく一葉作『にぎりえ』を、後藤加代の語りでお届けする。

明治の東京の「新開地」にある銘酒屋「菊の井」の一枚看板のお力は、優れた職人であった源七を破滅させるような女であり、ふりの客である朝之助と馴染みになるものの、彼女を思い切れない源七の刃にかかって落命する。西洋世紀末の文学的テーマである「宿命の女」を思わせるお力の「生き様」と「言葉」は、明治女流文学の第一人者の筆によって、時代を超えた女性の悲劇として、映画や舞台でも取り上げられている。

樋口一葉作

京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター主催
企画・構成・演出―渡邊守章 出演―後藤加代

語りの系譜 ②

にぎりえ



渡邊 守章 (わたなべ もりあき)

1933年生れ。東京大学教授、放送大学副学長、バリ第三大客員教授等を経て東京大学名誉教授、京都造形芸術大学教授、舞台芸術研究センター所長。専攻は仏文学・表象文化論。演出家。演劇企画『空中庭園』主宰。著書に『ポール・クロードル 劇的想像力の世界』、『虚構の身体』、『哲学の舞台』(フォーコーとの共著)、『舞台芸術の現在』、等。訳書に、ラシース『フェードル アンドロマック』、『ブリタニクス ベレニス』、フォーコー『性の歴史―一知への意志』、クロードル『緋子の靴』(上・下、毎日出版文化賞、日本翻訳文化賞、小西財団日仏翻訳文学賞受賞)、バルト『ラシース論』(読売文学賞受賞)等。演出作品に、ラシース『悲劇フェードル』(芸術祭優秀作品賞)、クロードル『貞望に分かつ』、ミュッセ『ロレンザッチョ』、ジュネ『女中たち』(読売演劇賞)、泉鏡花『天守物語』等。能・狂言等の日本の伝統演劇にも詳しく、能ジャンクション『葵上』『當麻』を、またクロードルの詩による創作能『内濠十二景、あるいは『二重の影』』『薔薇の名―長谷寺の牡丹』を作・演出。フランス共和国芸術文化勲章、フランス共和国国家功労勲章。



後藤 加代 (ごとう かよ)

演劇集団円における渡邊演出の実験的ラシース悲劇で、その存在感と強度のある声と台詞によって、悲劇女優としての類稀な才能を認められる。ラシース『バジャゼ』の後妃ロクサーヌ、『アンドロマック』のアンドロマック、『女王ベレニス』のベレニス(芸術祭優秀賞)、『悲劇フェードル』では、有史以来初めて、バリにおいて日本人による日本語のラシース悲劇として高く評価され、1999年には、バリでリニューアル・ヴァージョンに出演。バルコ能ジャンクション2『當麻』で観世榮夫・野村武司(現萬斎)と共演。泉鏡花『天守物語』の富姫(後に『空中庭園』製作でバリ公演も)、シェークスピア『ハムレット』(野村武司主演)のガートルードなど。円を退団後は、『キャバレ』等のミュージカル、平幹二郎のシェークスピア連続上演に参加。2005年には、クロードル没後五十周年記念・渡邊演出「朗読オラトリオ『緋子の靴』」(全曲版)で、その礎を振りをアピールした。

●ポストパフォーマンストークゲスト

5月29日―小林康夫

東京都生まれ。東京大学大学院総合文化研究科教授。専攻は表象文化論・現代哲学・フランス現代文学。2003年フランス共和国芸術賞受賞。主な著書に『表象の光学』(未來社)、『青の美術史』(平凡社)、『増補・出来事としての文学』(講談社)など。『表象のディスカール』(東京大学出版会)、『フォーコー・コレクション』(筑摩書房)などの編纂。

5月30日―平田由美

大阪大学大学院文学研究科・文化動態論専攻文学環境論講座教授。日本文学・文化研究、ジェンダー研究専攻。著書に『女性表現の明治史―樋口一葉以前』(岩波書店、第15回女性史青山賞)、『読売新聞文芸関係記事目録』(京都大学人文科学研究所)など。

企画・構成・演出: 渡邊守章 出演: 後藤加代 音響: 竹内範之 スタッフ: 京都造形芸術大学 舞台芸術学科生
スタッフ指導: 岩村原太 制作協力: 渡邊清子(空中庭園) 宣伝美術: 吉羽一之(シンプルホープ) 舞台写真: 清水俊洋

チケット

2010年3月25日(木) 発売開始

友の会先行発売 3月24日(水)

一般 2,500円 学生&ユース席 1,300円
シニア 2,200円 瓜生山学園生 800円
京都芸術劇場友の会 2,000円

- 当日は各500円増 ●整理番号付
- 未就学児童の入場はご遠慮ください。
- 本公演は教育・研究プログラムの一環として開催しております。記録資料作成のため、写真・映像の撮影を行う場合もございます。あらかじめご了承ください。

チケット取り扱い

■京都芸術劇場チケットセンター
tel.075-791-8240
(平日10:00-17:00)



劇場モバイルサイト

■劇場オンラインチケットストア ※要事前登録(無料)
パソコンから <http://www.k-pac.org/>
携帯から <http://www.k-pac.org/theatre/m/m>

協力

空中庭園



問合せ先/主催

京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター
606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116
tel: 075-791-9437 fax: 075-791-9438
mail: info@k-pac.org

- JR・近鉄京都駅、京阪三条駅、阪急河原町駅から
京都市バス5番「岩倉」行き乗車、
「上終町・京都造形芸大前」下車
(京都駅から約50分、三条駅・河原町駅から約30分)
- 京都市営地下鉄丸太町駅・北大路駅から
京都市バス204循環に乗車、
「上終町・京都造形芸大前」下車(約15分)
- 京阪電車出町柳駅から
叡山電車に乗り換え、茶山駅下車 徒歩約10分
※駐車場はございませんので、お車・バイクでの
ご来場はお断りします。

